【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成23年12月8日(2011.12.8)

【公開番号】特開2010-133197(P2010-133197A)
【公開日】平成22年6月17日(2010.6.17)
【年通号数】公開・登録公報2010-024
【出願番号】特願2008-312365(P2008-312365)
【国際特許分類】
*Ｅ０５Ｃ　3/00　(2006.01)*
*Ｅ０５Ｃ　3/30　(2006.01)*
*Ｅ０５Ｃ　3/36　(2006.01)*
*Ｅ０５Ｂ　65/08　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｅ０５Ｃ　3/00　Ｂ
Ｅ０５Ｃ　3/30
Ｅ０５Ｃ　3/36
Ｅ０５Ｂ　65/08　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成23年10月21日(2011.10.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
錠箱に、トリガーと、該錠箱に横設された固定軸に軸支されていると共に外周に係合歯を有し、かつ該トリガーの進退動に連動して回転するラッチ板と、前記係合歯と係脱する仮施錠用係爪片を備えかつ操作手段の操作力により上下方向にスライドする係合解除用スライド片と、前記仮施錠用係爪片が前記ラッチ板の係合歯に係合し得るように該係合解除用スライド片を常に付勢する復帰バネとをそれぞれ設け、前記係合解除用スライド片が前記操作手段の操作力により前記復帰バネのバネ力に抗してスライドすると、前記仮施錠用係爪片は該係合解除用スライド片に追動して前記係合歯から離れる引戸錠に於いて、前記係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０の隅角部６１に配設し、この係合解除用スライド片の内端部に前記仮施錠用係爪片の基端部を軸支する固定枢軸２７Ａが貫通し、この固定枢軸に前記復帰バネ５６Ａを取付け、該復帰バネは、前記仮施錠用係爪片を前記ラッチ板の係合歯に係合する方向へ常に付勢すると同時に、前記係合解除用スライド片を初期位置へと付勢することを特徴とする引戸錠。
【請求項２】
請求項１に於いて、一つの復帰バネ５６Ａは、その中央部が一つの固定枢軸２７Ａに巻装され、その一端部は仮施錠用係爪片５１の係合端部の内壁面に圧接し、一方、他端部は錠箱の隅角部に設けたストッパー１７に圧接していることを特徴とする引戸錠。
【請求項３】
請求項１に於いて、隅角部の幅広側壁には、一組の垂直案内長孔１９が形成され、これらの垂直案内長孔には、係合解除用スライド片５０Ａの揺れを防止することができるように該係合解除用スライド片の内端部に形成した一対の係合突片部分６２がそれぞれ係合していることを特徴とする引戸錠。
【請求項４】

請求項１に於いて、係合解除用スライド片５０Ａは、その垂直後壁５０ａの全てがケース身１０ａの後壁から食み出るように錠箱１０の隅角部６１に固定枢軸２７Ａを介して装着されていることを特徴とする引戸錠。
【請求項５】
錠箱に、トリガー３１Ａと、該錠箱に横設された固定軸２３Ａに軸支されていると共に後端部の外周に係合歯４７Ａを有し、かつ該トリガーの進退動に連動して回転する鎌片４０Ａと、前記係合歯と係脱する仮施錠用係爪片を備えかつ操作手段の操作力により上下方向にスライドする係合解除用スライド片と、前記仮施錠用係爪片が前記鎌片４０Ａの係合歯に係合し得るように該係合解除用スライド片を常に付勢する復帰バネとをそれぞれ設け、前記係合解除用スライド片が前記操作手段の操作力により前記復帰バネのバネ力に抗してスライドすると、前記仮施錠用係爪片は該係合解除用スライド片に追動して前記係合歯から離れる引戸錠に於いて、前記係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０の隅角部６１に配設し、この係合解除用スライド片の内端部に前記仮施錠用係爪片の基端部を軸支する固定枢軸２７Ａが貫通し、この固定枢軸に前記復帰バネ５６Ａを取付け、該復帰バネは、前記仮施錠用係爪片を前記鎌片４０Ａの係合歯に係合する方向へ常に付勢すると同時に、前記係合解除用スライド片を初期位置へと付勢することを特徴とする引戸錠。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】
【発明の名称】引戸錠
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ラッチング機構を備えた引戸錠に関する。特に本発明は、引戸の閉戸時、トリガーに連動する鎌片を備えた引戸錠に関する。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１にはラッチング機構が開示されている。図９は特許文献１に記載のラッチング機構Ｚの一例を示す。この特許文献１に記載の符号をそのまま用いてラッチング機構Ｚの構成を説明する。該ラッチング機構Ｚは、「トリガー３１と、固定軸２５に軸支されていると共に外周に係合歯４７を有し、かつ該トリガー３１の進退動に連動して回転するラッチ板４５と、前記係合歯４７と係脱すると共に可動ピン２７に軸支され、かつ戻しバネ６０で付勢された仮施錠用係爪片５１及び該仮施錠用係爪片に係合すると共に上下方向にスライド可能に設けられ、かつ錠ケース１０内に上下方向に配設された復帰バネ５６で付勢された係合解除片５０を有する引戸錠のラッチング機構Ｚであり、図示しない引戸を強く閉めた際に跳ね返りが生じると、前記仮施錠用係止爪片５１は、前記係合歯４７から受ける係合解除方向への力により、前記戻しバネ６０のバネ力に抗して、かつ、前記係合解除片５０の内端部に形成した水平案内長孔５４に係合する係合ピン５５並びに前記錠ケース１０に形成した逃し案内長孔２６に係合する前記可動枢支ピン２７を介して、前記水平案内長孔５４の遊び間隙５４ａ側及び逃し案内長孔２６の緩衝用間隙２６ａ側へと同時移行する」、ことを特徴とする。
【０００３】
したがって、特許文献１には、本願発明の前提要件と成る事項、すなわち、「錠箱１０（ケース身１０ａ）に水平動自在に設けられたトリガー３１と、該錠箱１０に横設された固定軸２５に軸支されていると共に外周に係合歯４７を有し、かつ該トリガー３１の進退動に連動して回転するラッチ板４５と、前記係合歯４７と係脱する仮施錠用係爪片５１を備え、かつ操作手段の操作力により上下方向にスライドするように該錠箱１０に設けられた係合解除片５０と、前記仮施錠用係爪片が前記ラッチ板４５の係合歯４７に係合し得る

ように該係合解除片５０を常に付勢する復帰バネ５６とから成り、前記係合解除片５０が前記操作手段の操作力により前記復帰バネ５６のバネ力に抗してスライドすると、前記仮施錠用係爪片は該係合解除片５０に追動して前記係合歯４７から離れる引戸錠」が開示されている。

【０００４】

上記錠前のラッチング機構Ｚは、本願の出願人が貴庁に提案したものであるが、部品点数が多いので、組み合わせが面倒であるという問題点があった。

【０００５】

すなちわ、図示しない操作手段を操作すると、係合解除片５０は、錠ケース１０の底壁付近に設けた第３固定軸５２及び該係合解除片５０に形成した垂直案内長孔５３を介して下方へスライドし、これに追動する仮施錠用係止爪片５１は、前記第３固定軸５２とは別個の可動ピン２７を支点にして復帰バネ５６及び戻しバネ６０の各バネ力に抗して反時計方向（係合解除方向）へと回転する構成なので、錠ケース１０の隅角部６１の側壁に複数個の軸孔、案内長孔２６等を形成しなければならないと共に、仮施錠用係止爪片５１用の可動ピン２７の他に係合解除片５０用の第３固定軸５２が必要であった。

【０００６】

なお、符号３７はトリガー３１の横長状杆部の下方に延びた連設部３４に突設された第２可動軸、４６はラッチ板４５の上端部に形成されたラッチ長孔、５７は係止爪片５１の係止端部、６１は錠ケースの隅角部、６２は戻しバネ６０の中央部を支持するバネ用支軸６２である。

【特許文献１】特開２００２－３２２８５０号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００７】

本発明の所期の目的は、特許文献１の問題点に鑑み、部品点数を極力少なくし、組み合わせの容易化を図ることである。第２の目的は、一つの復帰バネに複数の機能を持たせることである。第３の目的は、操作手段を操作したとき、上下方向に移動する係合解除用スライド片が左右に揺れないことである。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

本発明の引戸錠は、錠箱に、トリガーと、該錠箱に横設された固定軸２５に軸支されていると共に外周に係合歯を有し、かつ該トリガーの進退動に連動して回転するラッチ板と、前記係合歯と係脱する仮施錠用係爪片を備えかつ操作手段の操作力により上下方向にスライドする係合解除用スライド片と、前記仮施錠用係爪片が前記ラッチ板の係合歯に係合し得るように該係合解除用スライド片を常に付勢する復帰バネとをそれぞれ設け、前記係合解除用スライド片が前記操作手段の操作力により前記復帰バネのバネ力に抗してスライドすると、前記仮施錠用係爪片は該係合解除用スライド片に追動して前記係合歯から離れる引戸錠に於いて、前記係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０の隅角部６１に配設し、この係合解除用スライド片の内端部に前記仮施錠用係爪片の基端部を軸支する固定枢軸２７Ａが貫通し、この固定枢軸に前記復帰バネ５６Ａを取付け、該復帰バネは、前記仮施錠用係爪片を前記ラッチ板の係合歯に係合する方向へ常に付勢すると同時に、前記係合解除用スライド片を初期位置へと付勢することを特徴とする。

【０００９】

また、本発明の引戸錠は、錠箱に、トリガー３１Ａと、該錠箱に横設された固定軸２３Ａに軸支されていると共に後端部の外周に係合歯４７Ａを有し、かつ該トリガーの進退動に連動して回転する鎌片４０Ａと、前記係合歯と係脱する仮施錠用係爪片を備えかつ操作手段の操作力により上下方向にスライドする係合解除用スライド片と、前記仮施錠用係爪片が前記鎌片４０Ａの係合歯に係合し得るように該係合解除用スライド片を常に付勢する復帰バネとをそれぞれ設け、前記係合解除用スライド片が前記操作手段の操作力により前記復帰バネのバネ力に抗してスライドすると、前記仮施錠用係爪片は該係合解除用スライ

ド片に追動して前記係合歯から離れる引戸錠に於いて、前記係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０の隅角部６１に配設し、この係合解除用スライド片の内端部に前記仮施錠用係爪片の基端部を軸支する固定枢軸２７Ａが貫通し、この固定枢軸に前記復帰バネ５６Ａを取付け、該復帰バネは、前記仮施錠用係爪片を前記鎌片４０Ａの係合歯に係合する方向へ常に付勢すると同時に、前記係合解除用スライド片を初期位置へと付勢する。

【発明の効果】

【００１０】

（ａ）部品点数を極力少なくし、組み合わせの容易化を図ることができるので、特許文献１の問題点が解消する。

（ｂ）一つの復帰バネに複数の機能を持たせることができる。

（ｃ）請求項３に記載の発明は、操作手段を操作したとき、上下方向に移動する係合解除用スライド片が左右に揺れない。

（ｄ）請求項４に記載の発明は、錠箱のコンパクト化を図ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１１】

以下、図１乃至図６に示す本発明を実施するための最良の形態（第１実施例）により説明する。なお、本発明の第１実施例を説明するにあたって、図９の実施例と同一の部分には、対比の便宜上、同一の符号を付すことにする。

【００１２】

（１）発明の実施の環境

まず、図２を参照に発明の実施の環境について説明する。Ｘは引戸１の中に収められる彫り込み型の引戸錠である。一方、Ｙは戸枠２に固定的に取付けられた受け金具である。受け金具Ｙは、ボックス部を有するトロヨケ３と、このトロヨケ３の開口に重ね合わせられたストライク（受座）４とから成る。ストライク４は縦長板状に形成され、複数個の固着手段５を介してトロヨケ３の耳状の取り付け部に固定される。

【００１３】

６は前記ストライク４の縦長窓７から多少突出するようにトロヨケ３に適宜固定された押し込み兼掛合片で、この押し込み兼掛合片６は、トリガーの先端部と当接可能である。この押し込み兼掛合片６は、「チリ」設定を考慮して設けたものであるが、基本的にはストライク４の一部を構成する。したがって、ストライク４は、引戸１を閉める際に該押し込み兼掛合片６を介して、後述のトリガー３１を後退させる。

【００１４】

（２）錠ケース１０

次に、図２及び図３を参照に錠ケースを説明する。１０は引戸１の縦框に内装される錠ケースである。この錠ケース１０は、ケース身１０ａと、このケース身の大きい開口部を閉鎖する幅広板状のケース蓋１０ｂとから成る。

【００１５】

１１は錠ケース１０の前側の開口に固定されたフロントである。このフロント１１は、普通一般に錠ケース１０の長板状蓋板（或いは前壁）１２に固定されている。１３は錠ケースを引戸１に固定するための複数個の第２固着手段である。１４は縦長状の鎌片用出入り窓、一方、１５は矩形状のトリガー用窓である。トリガー用窓１５は、鎌片用出入り窓１４と連通する。

【００１６】

（３）錠箱１０の隅角部６１と本発明の特徴事項

ここで、図１を参照にして、錠ケース１０の軸孔等構成を簡単に説明する。符号２０はケース蓋１０ｂの中央部のフロント１１寄りに水平方向に形成された横長案内長孔で、該横長案内長孔２０は、弧状案内部２０ａと、これに連続する直線案内部２０ｂとから成る。符号２１は前記横長案内長孔２０に係合する鎌片用の第１可動軸、２２は横長案内長孔２０の付近に形成された鎌片用の円形軸孔、２３は該円形軸孔２２に支持された鎌片用の第１固定軸、２４は鎌片用の円形軸孔２２よりも斜め下方に設けられたラッチ板用第２固

定軸２５を支持する円形軸孔である。そして、符号２６は錠箱１０の隅角部６１（本実施例では錠箱の後端部の下方角部及び該下方角部付近）に形成された真円の円形軸孔である。この円形軸孔２６は、後述の一つの固定枢軸２７Ａを支持する。

【００１７】

ここで、図３を参照にして、錠箱１０の隅角部６１と本発明の特徴事項を説明する。隅角部６１は、その底壁１８の後端部１８ａ及び後壁の下端部が一部切欠１６されている。本実施例では、係合解除用スライド片５０Ａは、その垂直後壁５０ａの全てがケース身１０ａの後壁から食み出るように錠箱１０の隅角部６１に固定枢軸２７Ａを介して装着されている。これは、前述したラッチ板４５の係脱を考慮すると共に、錠箱１０の奥行きを可能な限り小さくするためである。

【００１８】

また、隅角部６１のケース身１０ａの底壁１８の後端部１８ａには、該後端部１８ａを内側に略直角に折り曲げ形成することにより、後述の復帰バネ５６Ａの他端部ｂを受けるストッパー１７が形成されている。さらに、該ストッパー１７を有する前記後端部１８ａは、係合解除用スライド片５０Ａの内端部に連設する外端部の上端縁を受け止める受け（例えば受け面、ストッパー面、受け片等）となっている。

【００１９】

このように、本実施例では、（ａ）錠箱１０の隅角部６１には、真円の円形軸孔２６を介して固定枢軸２７Ａが横設軸架されている点、（ｂ）前記固定枢軸２７Ａに復帰バネ５６Ａの中央部が巻装され、その一端部ａは仮施錠用係止爪片５１の係合端部５７の内壁面に圧接し、一方、他端部ｂは底壁１８の後端部１８ａのストッパー１７或いは錠箱内に設けたスットパー部材１７に圧接している点に特徴がある。（ｃ）また、前記復帰バネ５６Ａは、仮施錠用係爪片５１をラッチ板４５の係合歯４７に係合する方向へ常に付勢すると同時に、係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０に形成した受け１８ａ或いは錠箱１０に設けた受け部材１８ａに直接又は間接的に係止される初期位置へと付勢する点に特徴がある。（ｄ）また、本発明では、復帰バネ５６Ａのバネ力により係合方向へ常時付勢された仮施錠用係爪片５１を所定位置に止める仮施錠用係爪片５１用規制手段として、本実施例では、該仮施錠用係爪片の係合端部５７に係合長孔５８を形成し、一方、係合解除用スライド片５０Ａの内端部に前記係合長孔５８に係合する可動の規制ピン５９を設けている。（ｅ）さらに、図３及び図４で示すように、隅角部６１の幅広側壁には、前後に一組の矩形状の垂直案内長孔１９が所定間隔離間して段違い状に形成され、これらの垂直案内長孔１９には、係合解除用スライド片５０Ａの揺れを防止することができるように該係合解除用スライド片５０Ａの内端部に段違い状に形成した平板状の一対の係合突片部分６２，６２がそれぞれ係合している。（ｆ）加えて、係合解除用スライド片５０Ａは、その垂直後壁５０ａの全てがケース身１０ａの後壁から食み出るように錠箱１０の隅角部６１に固定枢軸２７Ａを介して装着されている。

【００２０】

（４）トリガー：水平進退動部材

次に図２、図５を参照にトリガーについて説明する。３１は錠ケース１０内に摺動自在に装着されたトリガーである。このトリガー３１は、図２で示すように引戸が開いている時は、錠ケース１０のフロント１１から突出する短杆状先端部３２と、この突出先端部３２にやや幅広に連設する横長状杆部３３とから成る。

【００２１】

前記横長状杆部３３の後端面とケース身１０ａの後壁との間にはトリガーバネ３５が横方向に組込まれている。トリガーバネ３５は、その先端部が横長状杆部３３後端面に適宜に圧接し、一方、後端部は後壁に設けられたバネ支持具（図示しない）に支持されている。したがって、トリガー３１は、その先端部３２の一部が常時フロント１１から突出するように付勢されている。

【００２２】

またトリガー３１は、錠ケース１０を進退動する時、錠ケース１０に形成されたトリガ

ーガイド（図示しない）に案内されるが、その際、トリガー３１をガタガタさせずにスムースに案内させる必要があるので、トリガー３１の横長状杆部３３の両側壁に、前記トリガーガイドに係合する突片状係合突起（図示しない）が設けられている。そして、トリガー３１には、該トリガーが錠ケース１０内へと後退動する際に、鎌片４０並びにラッチ板４５をそれぞれ係合方向へと回転させる動力変換機構の一部が設けられている。

【００２３】

トリガー３１側の動力変換機構の一部は、鎌片用第１可動軸２１が係合する被係合部部（下向き凹所、切欠部など）３６と、トリガー３１の横長状杆部３３の下方に延びた連設部３４に突設された第２可動軸３７である。

【００２４】

（５）トリガーバネ

トリガーバネ３５は、引戸１の閉戸時に、トリガー３１の先端部３２がストライク４の押し込み兼掛合片６に突き当たると、トリガー３１の後退にしたがって収縮し始める。一方、引戸１を開くにつれて先端部３２が押し込み兼掛合片６から離れると、トリガー３１の進出にしたがって伸長する。

【００２５】

（６）鎌片

鎌片４０は全体として人差し指を折り曲げた形態をしており、その基部４０ａには第１可動軸２１が突設されている。第１可動軸２１は錠ケース１０の横長案内長孔２０並びにトリガー３１の下向き凹所３６にそれぞれ係合している。また鎌片４０は幅広の基部４０ａ側に形成された鎌片長孔４１を介して第１固定軸２３に軸支されている。鎌片４０側の動力変換機構は、本実施例では少なくとも前記第１可動軸２１を構成要件としている。その結果、鎌片４０は動力変換機構（鎌片用第１可動軸２１、下向き凹所３６、第１固定軸２３）を介してトリガー３１に連動する。

【００２６】

（７）ラッチ板

ラッチ板４５は第２固定軸２５に軸支されている。またラッチ板４５は一端部に形成されたラッチ長孔４６を介してトリガーの第２可動軸３７に連結されている。したがって、ラッチ板４５も鎌片４０同様にトリガー３１の進退動に連動して回転する。４７はラッチ板４５の幅広他端部の外周に形成されたラチェット歯である。

【００２７】

（８）係合解除用スライド片５０Ａと仮施錠用係止爪片５１

引戸錠Ｘの錠ケース１０内の下部には、鎌片４０を仮施錠状態にする又は仮施錠状態を解消するための係合解除用スライド片５０Ａと、該係合解除用スライド片に連動（追動）するように固定支軸２７Ａを介して該係合解除用スライド片５０Ａに装着された仮施錠用係止爪片５１から成るラッチング機構Ｚ１が組み込まれている。

【００２８】

仮施錠用係止爪片５１は、前述したように、本実施例ではラッチ板４５の外周に形成した係合歯４７と係脱する。仮施錠用係止爪片５１の基本的構成は、特許文献１と同一である。したがって、その詳細説明は割愛する。仮施錠用係止爪片５１は、例えば図４で示すように、その自由端部側に相当する係合端部５７は、端面下向きコ字形状に形成され、その基端部には不番の軸孔が形成され、該軸孔に嵌め込まれた固定支軸２７Ａに軸支されている。

【００２９】

ここで、図３及び図４を参照にして、係合解除用スライド片５０Ａの構成を説明する。前述したように５０ａは錠箱１０の後壁から一部切欠１６を介して食み出す垂直後壁である。この垂直後壁５０ａには、該垂直後壁５０ａに直交する正面視コ字形状の垂直側壁（図４では手前の側壁）５０ｂが連設している。垂直側壁５０ｂは、図２で示すように、係合解除用スライド片５０Ａが錠箱１０に組み込まれた場合には、ケース蓋１０ｂの内壁面に沿って上下動する。

【００３０】
しかして、符号６４は垂直側壁５０ｂの上端部（係合解除用スライド片５０Ａの内端部に相当する）に形成された垂直長孔（逃がし孔）で、この垂直長孔６４には固定支軸２７Ａが貫通する。垂直長孔６４は、望ましくは固定支軸２７Ａを介して係合解除用スライド片５０Ａを上下方向に案内させる機能を持たせるべきであるが、該垂直長孔は、係合解除用スライド片５０Ａを上下方向に移動させる機能を有すれば十分であるから、必ずしも、垂直長孔に形成する必要はない。本実施例では、係合解除用スライド片５０Ａの案内手段は、前述したように、隅角部６１の幅広側壁に形成された段違い状の垂直案内長孔１９と、垂直後壁５０ａの上端部に該垂直後壁５０ａと直交するように互いに段違い状に突出し、かつ前記垂直案内長孔１９にそれぞれ係合する平板状の前後一対の係合突片部分６２，６２とから成る。
【００３１】
また、５９は垂直後壁５０ａの上端部の前記垂直長孔（逃がし孔）６４よりも先端部の位置に設けられた可動の規制ピンで、この可動の規制ピン５９は仮施錠用係止爪片５１の係合端部５７の係合長孔５８に係合する。さらに、５０ｃは垂直後壁５０ａの垂直他端部に連設しかつ垂直側壁５０ｂの外端部と対向する外端部対向壁で、この外端部対向壁５０ｃと垂直側壁５０ｂの下端部に相当する外端部には、操作手段６６の嵌合部６６ａと嵌合（接続）する矩形状の嵌合孔６５がそれぞれ形成されている。
【００３２】
（９）復帰バネ５６Ａ
復帰バネ５６Ａは、固定枢軸２７Ａに取付けられている。そして、本実施例では、図５で示すように、仮施錠用係爪片５１をラッチ板４５の係合歯４７に係合する方向へ常に付勢すると同時に、係合解除用スライド片５０Ａを錠箱１０に形成した受け１８ａ或いは錠箱１０に設けた受け部材１８ａに直接又は間接的に係止される初期位置へと付勢する。付言すると、復帰バネ５６Ａの中央部は固定枢軸２７Ａに巻装され、その一端部ａは仮施錠用係止爪片５１の係合端部５７の内壁面に圧接し、一方、他端部ｂは底壁１８の後端部１８ａのストッパー１７に圧接している（図３）。このように、固定支軸２７Ａに巻装された復帰バネ５６Ａは、仮施錠用係爪片５１を係合方向に常時付勢する第１付勢機能と、仮施錠用係爪片５１を介して係合解除用スライド片５０Ａを初期位置へと戻す共用的付勢機能（第２付勢機能）とを有する。
【００３３】
（１０）作用
図２は引戸１を開いた一例を示すが、この場合、（イ）トリガー３１の短杆状先端部３２は、トリガーバネ３４のバネ力によりフロント１１から僅かに突出し、（ロ）鎌片４０は錠ケース１０側に回転後退している。（ハ）またラッチ板４５はトリガー３１の進出に連動して鎌片４０と同方向に回転し、仮施錠用係止爪片５１の係合端部（係止部）５７から離れている。（ニ）さらに、係合解除用スライド片５０Ａは復帰バネ５６Ａのバネ力により底壁１８の受け（例えば後端部）１８ａに当る初期位置へと上昇している（非仮施錠状態）。
【００３４】
これに対して、図５は引戸１を閉じた状態である。特許文献１に記載のように、引戸１を閉じた場合には、鎌片４０及びラッチ板４５は、それぞれトリガー３１に連動するが、前記ラッチ板４５が固定軸２５を支点にして反時計方向に回転する際、その係合歯４７でもって仮施錠用係爪片５１の係合端部７５の上面を復帰バネ５６Ａのバネ力に抗して押し付けながら、前記係合歯４７は係合端部７５の上面を越えて該係合端部７５先端に至る（仮施錠状態）。
【００３５】
上記施錠状態に於いて、係合解除用スライド片５０Ａが操作手段６５の操作力により、復帰バネ５６のバネ力に抗して下方方向へとスライドすると、仮施錠用係爪片５１は、固定枢軸２７Ａを支点にして時計方向へ所要量回転追動し、ラッチ板４５の係合歯４７から

離れる（図６参照）。
【００３６】
なお、操作手段６５の操作力が解消すると、係合解除用スライド片５０Ａは、前述した復帰バネ５６Ａの共用的付勢機能により、錠箱１０に形成した受け１８ａ或いは錠箱１０に設けた受け部材１８ａに直接又は間接的に係止される初期位置へと戻る。
【実施例】
【００３７】
この欄では図７及び図９に示す本発明の第２実施例について説明する。なお、第２実施例と第１実施例との構成上の同一部分には、同一又は同様の符号を付して重複する説明を省略する。
【００３８】
まず、第２実施例の構成と第１実施例のそれと同一な点は、（１）引戸１を閉める際、トリガー３１Ａがストライク４Ａに当たると、トリガー３１Ａは錠ケース１０の案内部に案内されて水平状態に後退動する点、（２）鎌片４０Ａは、トリガー３１Ａが錠ケース１０内へと後退動すると、動力変換機構を介してストライク４と掛合する方向へ回転する点、（３）錠ケース１０には、閉戸時に鎌片４０Ａを仮施錠状態にするラッチング機構Ｚ１が組み込まれていることである。
【００３９】
次に第２実施例の構成と第１実施例のそれと主に異なる点は、（ａ）動力変換機構と、（ｂ）鎌片４０Ａの後端部にラチェット歯４７Ａが形成されている反面、ラッチ板が存在しないこと、（ｃ）その他トリガー３１Ａ、鎌片４０Ａの形態が異なることである。
【００４０】
しかして、動力変換機構について説明すると、７０はトリガー３１Ａの下部側に形成されたラックである。これに対し、７１はラック７０と噛み合うピニオンで、該ピニオン７１は鎌片４０Ａを軸支する第１固定軸２３Ａを基準にして鎌片４０Ａの中央部の外周に形成されている。このような動力変換機構は公知事実であるが、ラック７０とピニオン７１から成る公知の構成を採用しても、前記第１実施例と同一の目的・作用を得ることができる。なお、第２実施例に適用したラッチング機構Ｚ１は、第１実施例と同一なので、構成及び作用の詳細説明は割愛する。
【産業上の利用可能性】
【００４１】
本発明は、主に錠前や建具の業界で利用される。
【図面の簡単な説明】
【００４２】
図１乃至図６は本発明の第１実施例を示す各説明図である。図７及び図８は本発明の第２実施例を示す各説明図である。図９は従来の一例を示す説明図。
【図１】第１実施例の斜視図。
【図２】引戸を開いた一例の内部構造を示す概略説明図。
【図３】主要部の説明図。
【図４】主要部の分解斜視図。
【図５】引戸を閉じた一例の内部構造を示す概略説明図。
【図６】操作手段を下方方向へ引いた場合の概略説明図。
【図７】第２実施例の図２と同様概略説明図。
【図８】第２実施例の図３と同様の説明図。
【図９】従来の一例を示す説明図。
【符号の説明】
【００４３】
Ｘ…引戸錠、Ｚ１…ラッチング機構、１…引戸、Ｙ…受け金具、１…戸枠、４，４Ａ…ストライク、１０…錠箱、１６…一部切欠、１７…ストッパー（又はストッパー部材）、１９…垂直案内長孔、２３，２３Ａ…第１固定軸、２５…第２固定軸、２６…真円の円形軸

孔、２７Ａ…固定支軸、３１，３１Ａ…トリガー、４０，４０Ａ…鎌片、４５…ラッチ板、４７，４７Ａ…係合歯、５０Ａ…係合解除用スライド片、５１…仮施錠用係止爪片、５６Ａ…復帰バネ、５７…係合端部、５８…係合長孔、５９…規制ピン、６１…隅角部、６２…係合突片部分、６５…嵌合孔、６６…操作手段、７０…ラック、７１…ピニオン。